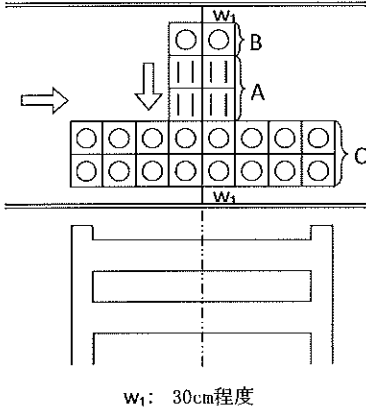


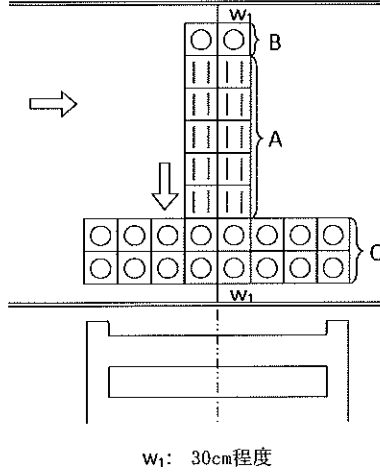
横断歩道口の設置例

視覚障害者が横断歩道上を確実に歩行できるよう横断歩道直前に、線状ブロックで歩行方向及び横断歩道の中心部を案内することとする。

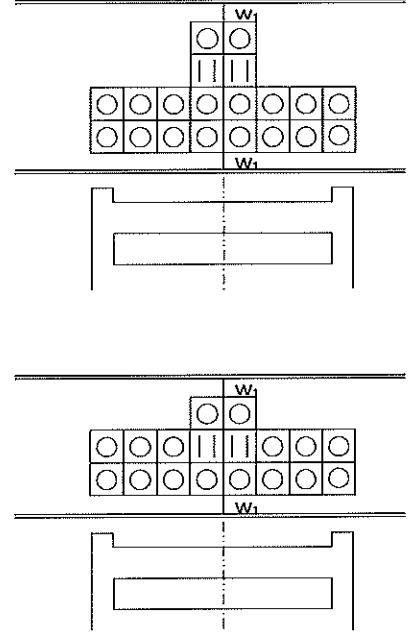
(歩道幅員が広い場合)



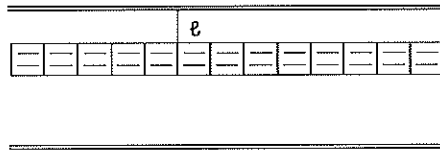
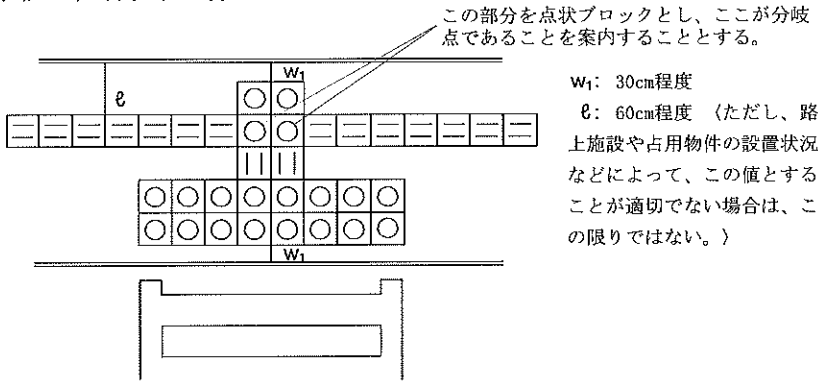
(さらに歩道幅員が広い場合は、Aの部分の設置する範囲が広くなることとなる。)



(歩道幅員が狭い場合)



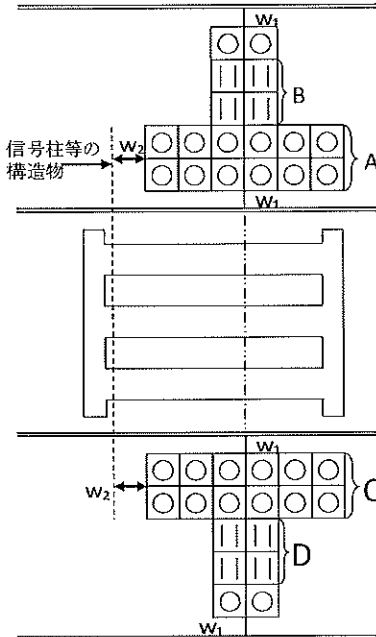
(継続的直線歩行を案内している場合)



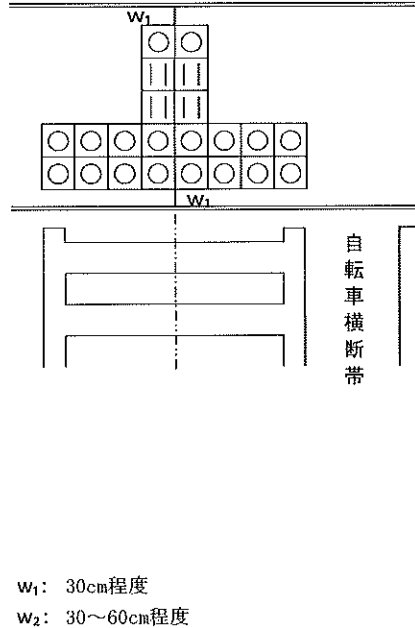
w_1 : 30cm程度

注) 線状ブロックで、横断歩道上の歩行方向及び横断歩道の中心部を案内することが望ましい。

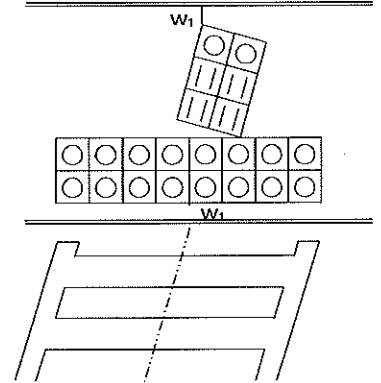
(信号柱等の構造物がある場合)



(自転車横断帯がある場合)



(横断歩道が斜めの場合)

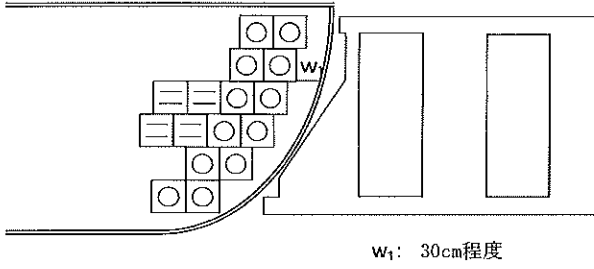


注) 横断歩道の方向と線状ブロックの線状突起の方向とを同一方向にすることが望ましい。

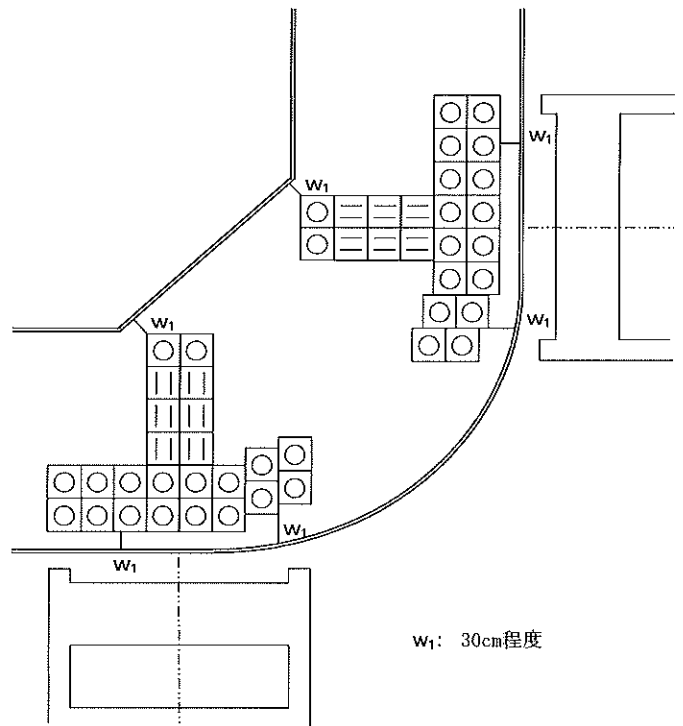
歩道巻込部の設置例

歩道巻込部は、大別すると2種に分かれる。つまり、進行する一方向のみに横断が生ずる場合と、2方向もしくは3方向に横断が生じる場合である。いずれの場合も、線状ブロックで横断方向及び歩行位置を案内するものとする。

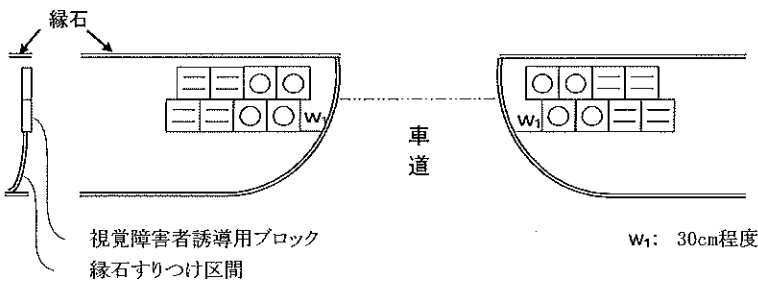
(歩道幅員が広い場合)



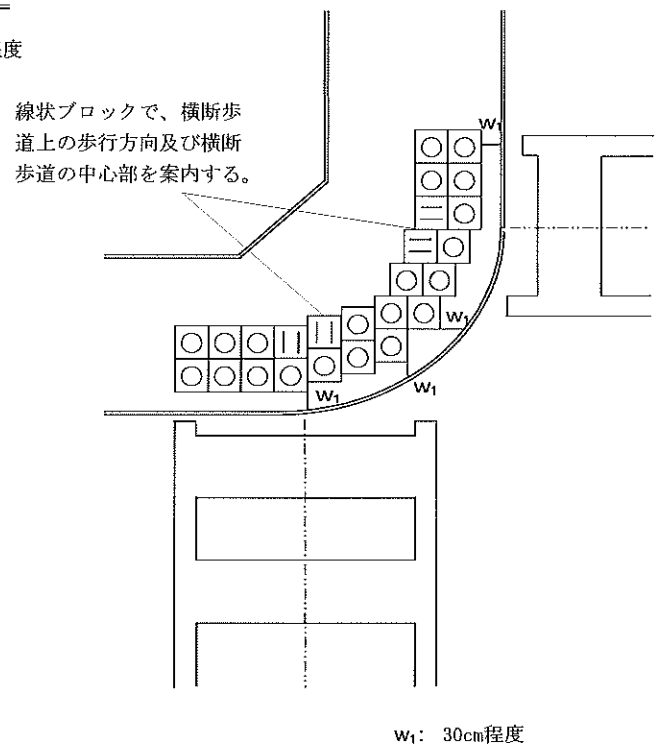
(2方向に横断が生じる場合)



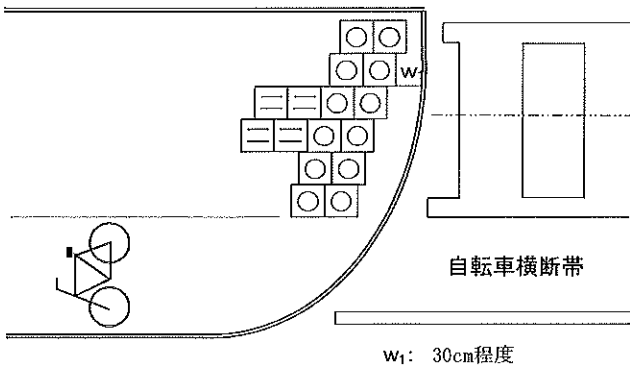
(歩道幅員が狭い場合)



(横断歩道が近接している場合)

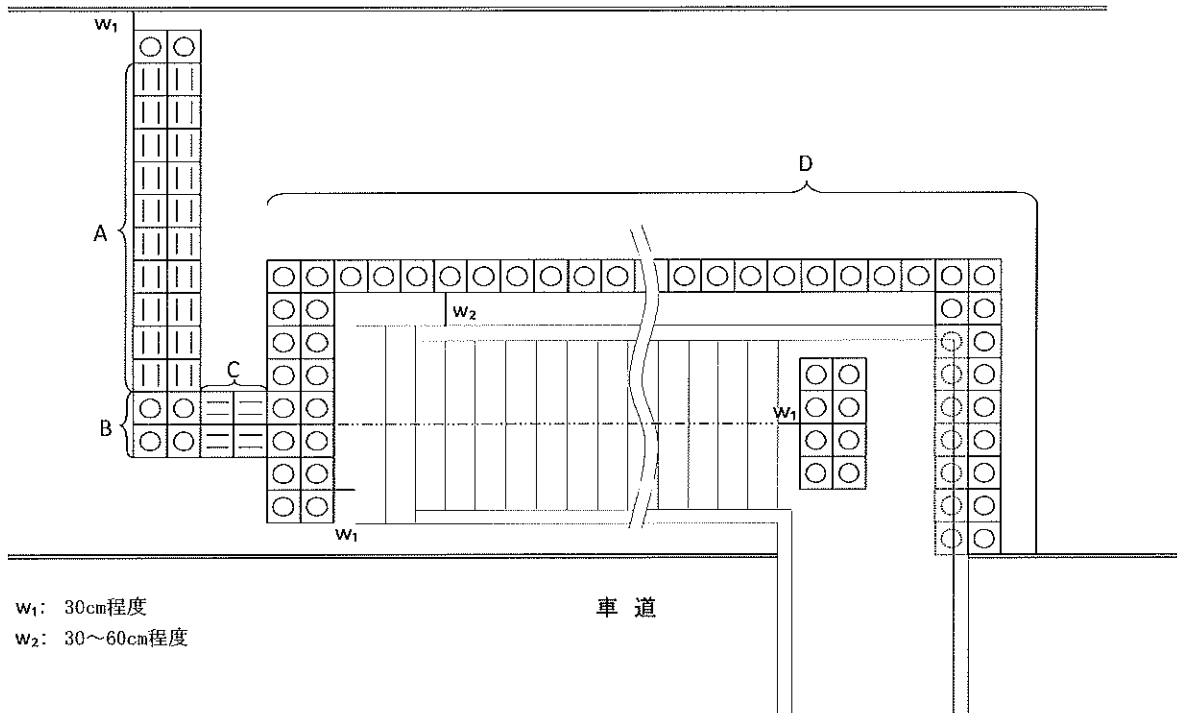


(歩道上、自転車の通行すべき部分が指定されている場合)

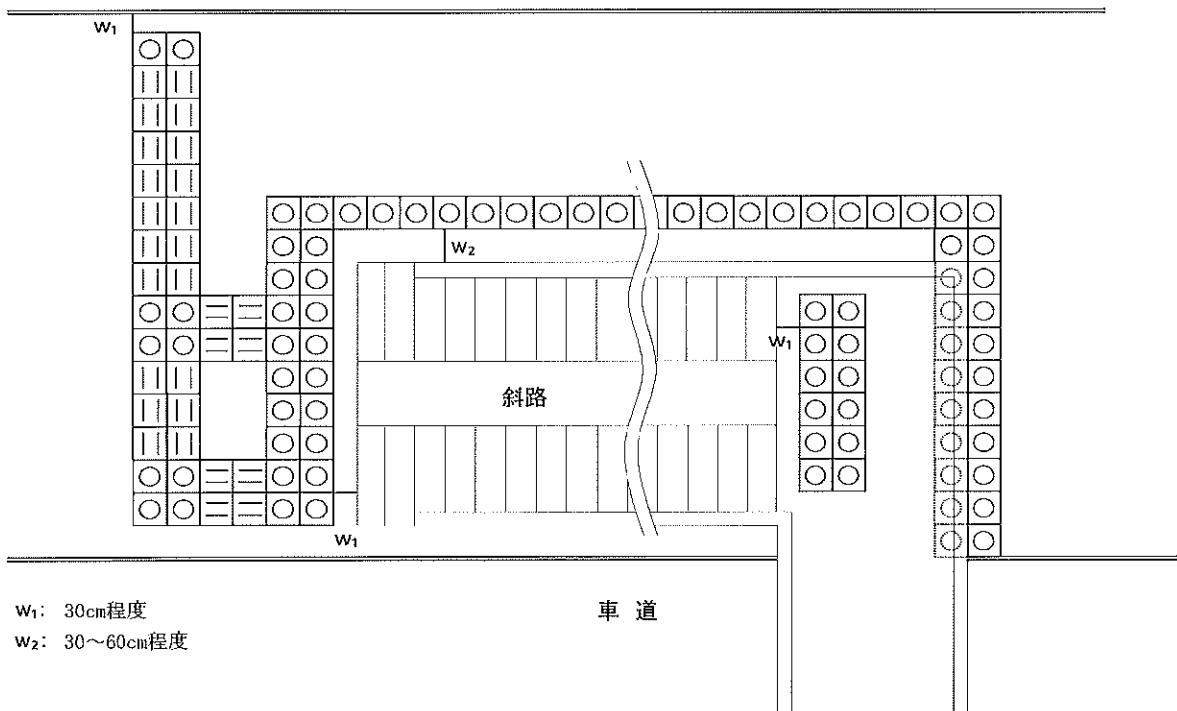


横断歩道橋の昇降口の設置例

横断歩道橋の昇降部へは、線状ブロックにより誘導し、点状ブロックで昇降部の位置を示すものとする。
 また、視覚障害者が横断歩道橋の橋脚等に接触することのないような措置を講じるものとする。なお、横断歩道橋の階段などには、視覚障害者が階段を上り切った時などに”からあし”を踏むことがないように、最上段の階段を他の階段と区別することが出来るような方策、例えば、滑り止めなどの大きさを最上段の階段のみ異なるものとするなどの方策を取ることが望ましい。
 なお、横断歩道橋の手すりには、必要に応じ点字等による案内を行うことが望ましい。



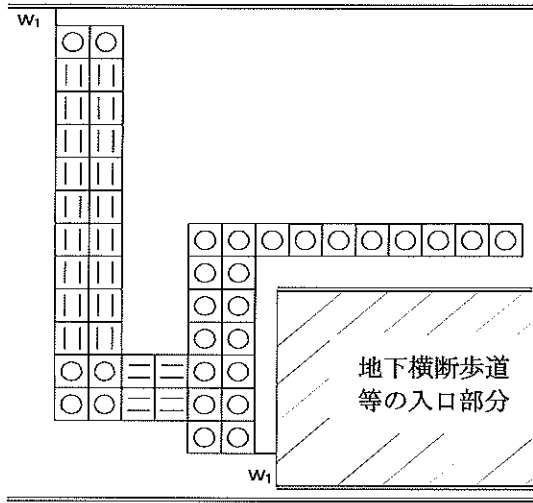
(斜路付階段のある横断歩道橋の例)



地下横断歩道等の昇降部の設置例

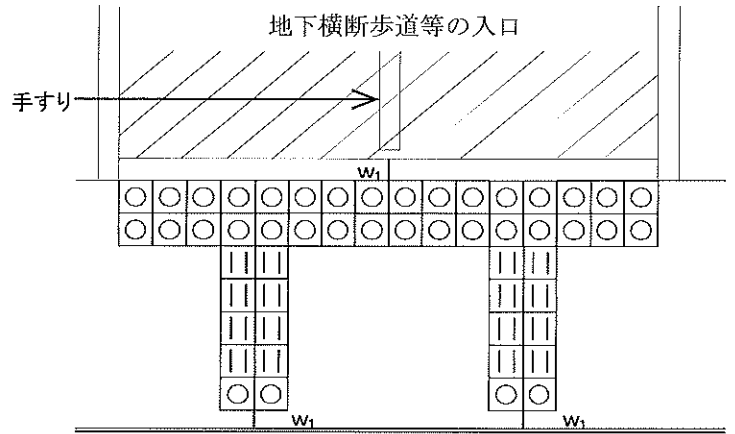
地下横断歩道や地下鉄等の昇降口には、横断歩道橋の場合と同様な考え方で、視覚障害者誘導用ブロックを設置するものとする。

（地下横断歩道等の入口部分の方向が歩道上の歩行方向と一致している場合）



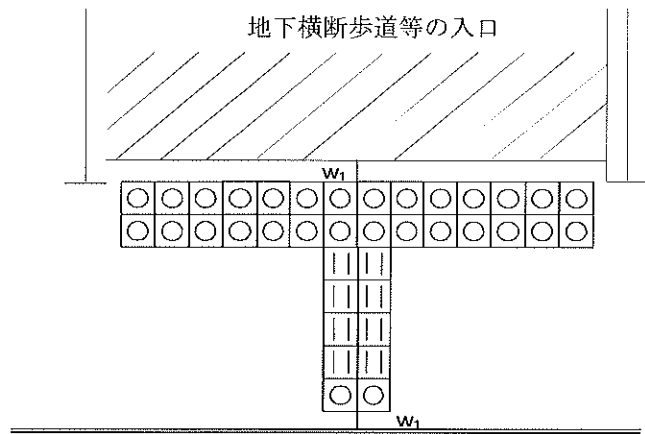
w_1 : 30cm程度

（地下横断歩道等の階段の中央ブロックに手すりがある場合）



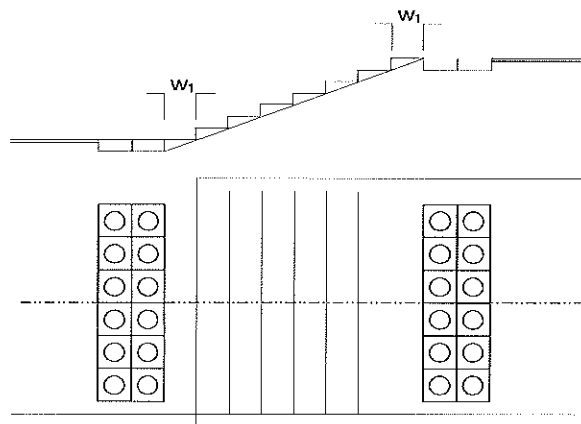
w_1 : 30cm程度

（地下横断歩道等の入口部分の方向が歩道上の歩行方向に対して直角方向である場合）



w_1 : 30cm程度

階段の設置例

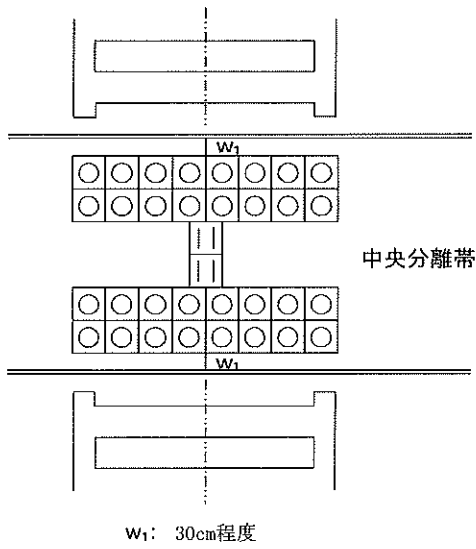


w_1 : 30cm程度

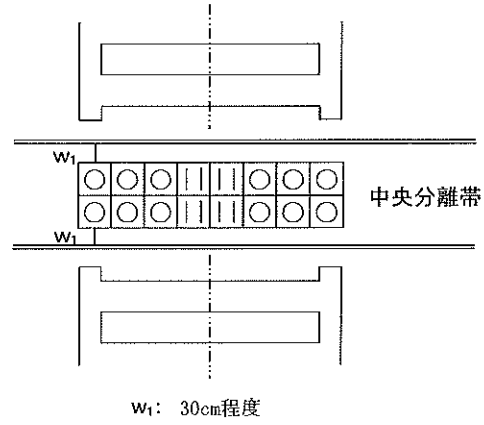
中央分離帯の設置例

中央分離帯には、横断歩道の幅を示す点状ブロック、歩行方向及び横断歩道の中心部を示す線状ブロックを設置することとする。

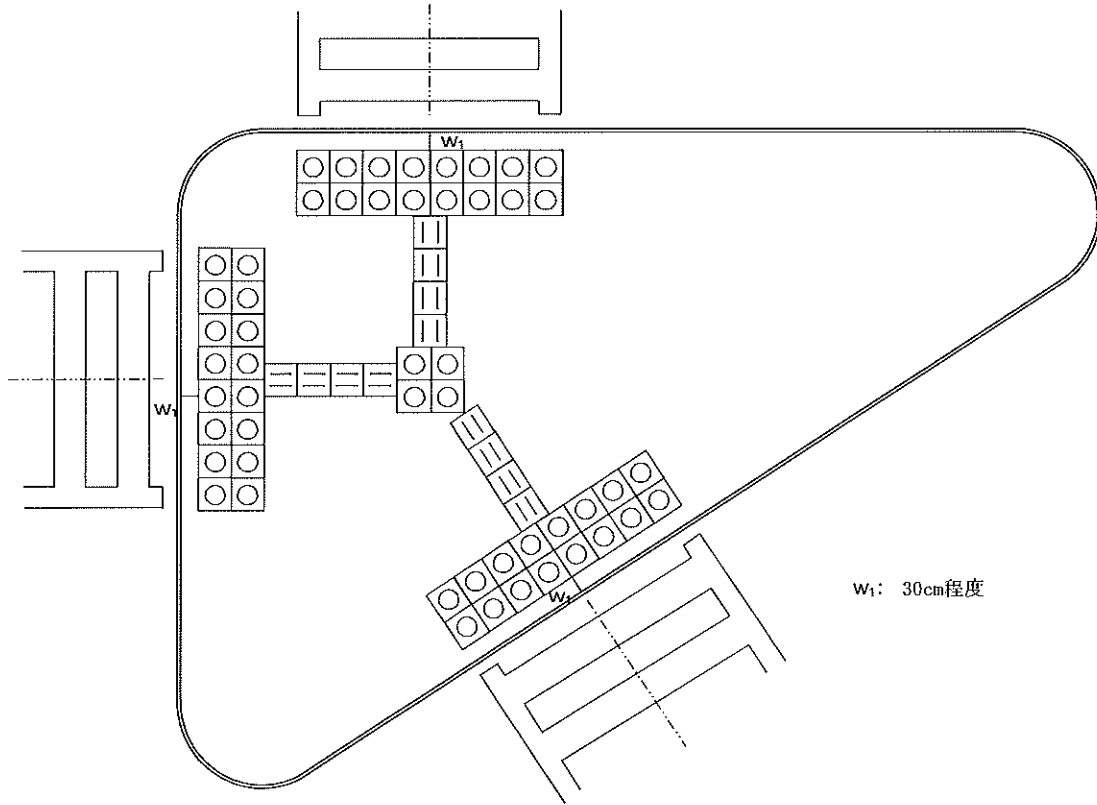
(広い中央分離帯の場合)



(狭い中央分離帯の場合)



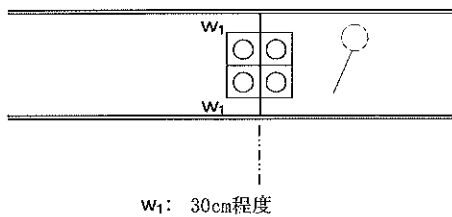
(交通島の場合)



バス停部の設置例

バス停部では、バスの乗車口を案内するものとする。

(歩道幅員が狭い場合)



(歩道幅員が広い場合)

